

清政

神道政治連盟京都府本部会報
平成23年7月11日発行（年2回発行）



御製
五年の昔の禍を
思ふとき
復興の様しみて
うれしき



艱難汝を玉にす
統一地方選挙を終えて
40周年記念式典
40周年記念事業
東日本大震災
事務局からの活動報告
せいせい書評

50
記念号

「艱難汝を玉にす」



神道政治連盟京都府本部
本部長 林 秀俊

三月十一日に東北地方を襲った未曾有の東日本大震災により犠牲になられた皆様に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

今回の大震災は津波を引き起こし、犠牲者一五、四七一人、行方不明者七、四七二人（六月二十一日現在）という甚大な被害を出し、更には誰も安全と信じていた福島第一原子力発電所が津波被害により原子炉のメルトスルー、放射能汚染と歴史上最大規模の被害をもたらしました。

十六年前、藤元の阪神淡路を襲った大震災が脳裏を駆け巡り、復興支援活動に馳せ参じ、そのおぞましい光景が甦ったのは私一人ではないと思います。しかし、現状は時を追うにつれその何倍もの被

災状況となり、私たちに何が出来たのか、何をすればいいのか、思いは焦るばかりで行動が伴わない我が卑弱さにジレンマと不甲斐ない気持ちに苛まれてしまいました。畏くも天皇陛下におかれましては、三月十六日に異例の映像を通し国民に「おことば」を述べられました。そのおことばには、「被災者の苦難の日々を、様々な形で国民が分かち合っていくことが大切である」と呼び掛けられたのであります。

震災後、陛下は直ちに御所に地震並びに原発の専門家を召され状況を精査され、薄暗いお部屋でただお一人被災者や国民へのおことばを推敲されていたと、もれ賜っております。

陛下は国民の先頭に立ち、御所の「自主停電」を実施されました。更には那須御用邸の職員用浴場を避難者に開放、御料牧場の卵や野菜、缶詰などを被災地に送られました。被災地にも隈なくご訪問され、避難所では床に膝をつき、被災者に直接お声を掛けられ見舞われました。

ご静養も見送られ、園遊会も中止され、国難にあたり被災者に大御心をお寄せ頂くお姿に被災者は何より勇気付けられたことと思っております。

皇太子ご一家、秋篠宮ご一家、各宮家でも陛下にならっておつとめになられています。
しかし、復興施策の要である政府は当の指揮官の失政、各対策会議も船頭多くして船山に登るごとき機能不全の状態であり、この拙稿がお目に留まる頃には政府も如

何にか、全く予測がつかない情けない現状であります。一日も早く正常な政権復権により復興が進むことを願ってやみません。
今後、神道連は被災状況の的確な判断と被災地からの要望への即応、そして被災者の心が癒されるまでの長期的支援が課せられた使

命であります。また、地域の精神的要である三〇〇〇社を超える被災神社の早期復旧も重要な課題であります。
創立四十年を迎えた神道連が今ここに力を発揮せずして今後何が出来るのか、大御心を体し今こそ英知を結集して係る諸問題に積極的に取り

組まなくてはならない秋であります。「艱難汝を玉にす」を心の支えに、会員各位の倍旧のご協力ご支援を切にお願い申し上げます。



「第十七回統一地方選挙」を終えて

自由民主党京都府支部連合会

会長 二之湯 智

神道政治連盟京都府本部の会員の皆様にはご健勝にてご活躍ことと存じます。平素は日本の歴史、伝統、文化の継承発展のために、献身的な活動をされておられますことに、心より敬意を表します。また、自民党京都府連の政治活動に對しまして、温かいご支援、ご厚情を賜りまして厚く御礼申し上げ

げます。
今年は一地方選挙の年でした。自民党にとっては野党になって初めての大型の地方選挙です。相당한覚悟を持って、熱心に取り組まなければ京都府会、京都市会において第一党の座を堅持することは難しいと考え、自民党京都府連では、昨年九月には第一次公認候補





者を決定して、必勝の態勢を整えました。最終的には府会二十七人、京都市会二十四人を公認し、戦いに挑むことになりました。

選挙も目前に迫り、各候補者が必死になって活動している三月十一日、東日本大震災が起きました。地震、津波の被害に加え、その後、福島原子力第一発電所での事故が重なり、マスコミの報道も大部分が大震災と原発事故に占められて、統一選挙への関心が薄れてしまいました。したがって投票率がかなり低くなるのではないかと、もしそうならば強力な組織を持つ政党に有利になって、組織を持たない自民党には不利ではないかという心配が起こってまいりました。私は各候補の演説会場に行く度に、

投票率の向上をお願いいたしました。

しかし、それ以上に会場でも街頭でも、民主党が政権を担当して以来一年半、この間の民主党政権の運営ぶりを見ていて、果たして私たちのかけがえのない国家の運命を任せていいのか、国民の生命と財産を本当に守ってくれるのかと訴えました。

一昨年の総選挙での財源の裏づけのないマニフェスト（政権公約）は実現の可能性はなくなってきたいます。沖繩の普天間基地の移設を巡り、日本の安全保障にとって、死活的に重要な日米同盟関係に大きな亀裂をもたらし、国民を不安にさせています。政治家は誰がやっても同じだ、どの政党が政権を担当しても政治は変わらないと国民は軽く思っていたのではないのでしょうか。それがそうではないことが、一年半の民主党政治ではつきりと判ってまいりました。一年半という時間のムダはありましたが、反面大きな学習もしましたし、多くの教訓も得ました。自民党も反省すべきことも多くあるが、民主党政権はもともと駄目だということが明らかにになりました。

政治が国民の安全、安心、そして国家の平和と繁栄にいかに重要であるかという思いが国民に芽生えてきたことが、今回の統一選挙の良い結果につながったと思っています。

民主党への失望という自民党にとっては順風の中での戦いでしたが、各候補が必死になって健闘し、府会、京都市会で、引き続き第一党の座を守り抜くことが出来ました。新しい議員の方々が、古都京都の議員らしく日本の歴史・伝統・文化を大事にする府政、市政推進を推し進め、活躍されることを念願しております。そのためにも連盟の皆様におかれましても、地方議員の方々と連絡を密にさせていただきます。折に触れて勉強の機会を設けていただきたいと思います。結びに当り、春の統一選挙におきまして各地で自民党公認候補に頂きました暖かいご支援に心より御礼を申し上げますと共に、神道政治連盟京都府本部の益々のご発展と会員の皆様のご健勝をお祈り致しまして私のご挨拶とさせていただきます。

神道政治連盟京都府本部創立40周年記念式典

創立四十周年記念大会を終えて

創立四十周年実行委員会 委員長 竹内 幸平

十一月九日の神道政治連盟京都府本部創立記念日に合わせ、四十周年記念大会が無事に開催されました。創立当時の社会状況の中で、の諸先輩方のご苦勞を偲びつつ、大会の計画・準備を進めました。大会当日は来賓・府議会議員を始め多くの同志の参加をいただき緊張の中、京都府戦没英霊追悼慰霊祭、記念式典、京都府議会神道議員連盟発足式及び懇親会の順に進み、神政連京都府本部の方向性が示されたように感じました。

第一部の京都府戦没英霊追悼慰霊祭は、私が齋主として身の引き締まる思いで奉仕させていただきました。感謝致しております。英霊の精神を無駄にせぬようお誓いし、我々が今日このようにあるのも英霊の御蔭と感謝申し上げます。

第二部の記念式典では、本年が教育勅語発布百二十年の意義ある年にあたるため、式典の冒頭で教育勅語を奉読、また今後の会員大会等にも継続実施することが計画段階で決まり、この上ない喜びを

感じました。国家の根本は教育であります。品格ある強い国家を取り戻すためにも、教育勅語の精神を学ぶべきと思う一人です。林本部長も挨拶の中で「日本人を育んだ崇高なる精神の源泉は教育勅語である」と力強く言及されましたことは大変意義あることと思っています。教育、更には憲法改正にまで通ずるのではと思われる程、説得力のある心に染みる挨拶でした。

第三部で、京都府議会神道議員連盟が正式に発足しましたことは、今後の府政を占う画期的なことと思うと共に、神政連京都府本部の大きな功績であると思います。長い間、自民党府議会事務局との協議、宮崎義敬神政連会長、大原康男先生をお招きしての研修会・懇談会を開催し、議員との意見交換を重ね発足に向けて努力がなされた結果だと思えます。本部長以下役員、事務局の方々の努力、熱い心に感謝申し上げますと共に、懸案解決で安堵いたしております。

戦没者英霊の顕彰、品格ある国家へ向けての国民運動の展開、京都府議会神道議員連盟の方々への教化及び連携しての活動が京都府本部の柱であり、重要な問題だと思ふと共に、神政連の役割の重さを感じました。



第一部

京都府戦没英霊追悼慰霊祭

十一月九日（火）午後一時よりリーガロイヤルホテル京都において当会創立四十周年の記念式典と永年の懸案であった京都府議会と神道議員連盟の発足式開会の前、約三〇〇名の参列者を迎えて斎行された。早朝より公益社様のご協力のもと斎場には荘厳なる大神籬が聳える祭壇が整えられ、入念なる習礼と打ち合わせを行い祭典開始の時間を迎えることとなる。

祭典に入る前に先ずは国歌斉唱、続いて「海ゆかば」を合唱。祭主竹内副本部長（創立四十周年実行委員長）を先頭に石清水八幡宮・賀茂別雷神社・北野天満宮・護王神社・平安神宮と当会役員の神職が祭員として続き、京都府神社庁雅楽部会の奏楽により参進、祭典が開始された。

斎場・祭壇・奉仕者・参列者を清めた後、神籬に京都府出身の戦没英霊に御降臨頂き、京都府産の物に拘った神饌を英霊に供進せしめた。祭壇は全て整い斎主による祭詞の奏上がなされる。その声は

斎場に朗々と流れ、その響きは参列者の涙腺を刺激するほどの素晴らしいものであった。続いて都山流尺八楽会大師範藤田天山師による尺八の奉納、平安神宮・八坂神社の巫女による浦安の舞の奉奏が行われ、英霊の御霊をお慰め申し上げた。また玉串拝礼では京都府神社庁長を始め各団体の代表者が

英霊に対する感謝の気持ちと各々の誓いを玉串に込め神前に供えられた。

祭典中、終始斎場には一種独得の張り詰めた空気が流れていた。政権交代がなされ、国政が混乱を極める世情において、あたかも英霊が私たちを叱咤激励してくださっているように感じたのは典儀をご奉仕させて頂いていた私だけだったのでしょうか。

幹事長 梶 道嗣



第二部

記念式典

第二部記念式典は会場を朱雀の間に移して行われた。

まず、国旗儀礼に始まり、開会の辞、神宮遙拝、国歌斉唱に続き、林本部長が教育勅語を奉読。時恰も教育勅語渙発百二十年の年。いつの時代にあっても誰もが良識的に認めることの出来る教育勅語の内容とその普遍的精神を参加者一同が改めて認識をした。

綱領唱和のあと林本部長が挨拶。当本部結成以来四十年に亘り、皇室の尊厳護持を第一に掲げ、伝統と文化を守り日本の歴史を正しく伝えるための活動を成し遂げてこられた先輩諸賢に敬意と感謝を述べると共に、英霊顕彰事業の更なる厳修と教育勅語の精神、崇高なる英霊の精神とを顧みて、日本人の心の荒廃に歯止めをかけることを最重要課題と位置づけ実践に取り組むことを誓った。

次に、先の中央本部結成四十年記念式典に於いて表彰の榮に浴された伏見稲荷大社に対し感謝状の伝達があり、長曾我部神政連会

長から同大社舟橋雅美正禰宜に感謝状が手渡された。また、当本部記念表彰では、二十七人・五団体・三支部・十四神社に功績大として表彰状が贈られた。

続いて来賓紹介があり、来賓を代表して長曾我部延昭神政連会長、

田中恆清京都府神社庁長、荒巻禎一京都府神社総代会長、坪内正一京都府議会神道議員連盟会長より祝辞を頂戴した。そして、梶幹事長による記念事業の概要説明がなされ決議文を採択し、聖寿万歳、閉会の辞、国旗儀礼を行い式典を閉じた。

副幹事長 齋藤昌道



田中恆清京都府神社庁長



長曾我部延昭神政連会長



坪内正一京都府議会議員



荒巻禎一京都府神社総代会長



神道政治連盟京都府本部創立40周年記念式典

第三部

京都府議会神道議員連盟発足報告式・祝宴

第三部は午後四時より、第一部戦没英霊追悼慰霊祭の斎行された同会場を模様替えして開催された。そもそも第三部は、神政連京都府本部創立四十周年記念大会の祝宴であったが、また同時に今大会の柱のひとつである京都府議会神道議員連盟の発足報告会も兼ねていたため、乾杯に先立ちその報告式が執り行われた。

まず開会の辞に続いて第三部までご出席いただいたご来賓を紹介、その後梶幹事長より京都府議会神道議員連盟発足についての趣旨説明が行われた。梶幹事長は同議員連盟について、予算のばらまきや外交問題、我が国の文化・伝統に悪影響を及ぼすおそれのある法案の成立を目指すなど、日本の将来を奪いかねない現民主党政権に代わって、本来の日本の姿を取り戻すために是非とも必要な組織であり、今後も神政連京都府本部としては同議員連盟と緊密に連携を執

りながら活動を展開してゆく旨の説明がなされた。

引き続き、自民党府議会議員幹事の近藤永太郎議員より、規約の制定や役員として会長に坪内正一議員、副会長に奥村敏晴議員、村田正治議員、菅谷寛志議員、事務局長に巽昭議員、また幹事に石田宗久議員、渡辺邦子議員がそれぞれ就任されたことなどを含めた



近藤永太郎京都府議会議員

これまでの経過報告がなされ、会場からはひととき大きな拍手が鳴り響いた。

その後、神政連和歌山県本部九鬼家隆本部長の発声で声高らかに乾杯、創立四十周年の祝宴が和やかに催された。

この度の京都府議会神道議員連盟発足への積極的な取り組みが評価され、去る六月八日に神社本庁において開催された神道政治連盟中央委員会において、表彰の栄に浴した。

副幹事長 後藤重和



神道政治連盟京都府本部創立40周年記念時局講演会

保守政治再生へ

二十一世紀のグランドビジョン

第九十代内閣総理大臣 安倍晋三氏

創立40周年記念時局講演会

- 演題：「保守政治再生へ
～二十一世紀のグランドビジョン～」
- 講師：元内閣総理大臣 安倍晋三先生
- 日時：平成22年12月19日
- 場所：ホテルグランヴィア京都

当本部は、創立四十年を迎えるにあたり、その佳節を彩る特別時局講演会には、どのような講師がふさわしいのか再三会議にて諮った結果、近年の総理大臣の中でも傑出した指導力を発揮され、長年の懸案であった教育基本法の改正や、憲法改正に向けての国民投票法の整備など、顕著な功績を挙げられた第九十代内閣総理大臣安倍晋三衆議院議員に講演を依頼することとなった。早速神政連国会議員懇談会幹事である西田昌司参議院議員を通じて依頼を申し上げたところ快諾を得、晴れて日本会議・京都との共催として特別時局講演会実施の運びとなった。

当日会場となったホテルグランヴィア京都には、安倍氏を一目見、またその講演を拜聴しようと、府下津々浦々より詰めかけた会員・関係者は優に千名を超え、超満員の会場に入りきれずにいた方のために別室を用意し、プロジェクトで講演映像を映し出す準備もしたほどの盛況ぶりであった。

開会式には来賓として、田中恒清京都府神社庁長、二之湯智、西田昌司両参議院議員、坪内正一京都府議会神道議員連盟会長らを始め、多くの府議・市議各議員が参列、林本部長からは、数々の実績を残された安倍元総理を講師に迎える喜びを語り、一刻も早く民主党から政権を奪取し、再び首相に就いていただきたいと挨拶があった。

講演ではまず冒頭に、江戸末期の歌人・国学者、橘曙覧の二種の歌を披露され、「古来より日本人は神の国としてその教えに導かれ、異国の文化に惑わされず生きることを良しとしていた」との趣意を紹介された。

「天皇陛下を中心として、秋には五穀豊饒を神に感謝する、その伝統を誇りとする国、それが美しい国ではないかと思う。翻って現在のわが国は危機的な状況だ。問題は大きく二つある。ひとつは国の借金。かつて自民党は借金をつくったと非難

されるが、その代わり雇用をまもり経済を下支えしたが、今の政権は金をばらまくばかりで、経済はさらに悪化し、借金も増える一方だ。ただし、ギリシヤのような破綻的な状況ではない。まだまだ日本の国際的信用は高い。今後は支出を減らし、消費税を上げ、経済を成長させる政策が必要だ。そうすれば株価も上がり、年金の運用も安定するだろう。

もう一つの大きな課題は、中国と如何に付き合っていくかだ。中国は、共産主義でありながら資本経済を導入する変則的な構造だが、大きく経済成長している。しかし特殊であるが故に、共産党一党独裁の歪みも出てきている。この歪みの歪みを支えているのが、愛国主義であり反日教育だ。また、成長する経済を支えるために、資源を求めて海洋に領土拡大を目論んでいる。わが領土への侵略を防ぐには、現状では米国に頼らざるを得ないが、民主党政権はその米国との関係を非常に悪化させ信用を失ってしまった。信頼のない条約はただの紙切れだ。また外交においてメッセージやサインを送ることは歴史的に見ても誠に重要だが、民主党政権は、中国に対してずっと間違ったサインを送り続けている。とりわけ尖閣問題で菅内閣が発した数々のサインは最悪だ。これは、民主

党政権に中国に対する戦略がまるでないからだ。不法な行為をする国には毅然とした態度で挑む。そのためにはまず自分の国に誇りを持たねばならないと思うのである。

戦後我々は、損得を価値の基準においてきた。このことを反省すべきだ。かつての美しい国民性を取り戻すためにも、教育は特に重要だ。今年には政権を奪還し教育からやり直していきたい。是非とも自民党復活のためにご協力いただきたい。」と述べられ講演を終えられた。

次に質疑応答として、「自身の神道に対する考えは如何に」と問われ、「人々が鎮守の杜に集い人智を越えた存在に手を合わせる事が重要であり、神への畏れが人を謙虚にさせる。」と述べられ、あわせて、「日本の家族像に関連し、「民主党が進めることも手当政策の本当のねらいは、家族から子どもを解放しようという「家族の解体」にある。配偶者控除の廃止も同様の発想だ。大変危険な考え方だ」と警告を寄せられた。

次の質問として、「現憲法は戦勝国の押しつけ憲法、即刻廃棄し新憲法を制定すべきだと思うが如何か。また、かつての敵国米国との安保条約は廃棄し、自衛軍を整備すべきと思うが如何か」との質問に対し、「憲

法は残念ではあるが今となっては廃棄は不可能。まずは速やかに憲法改正が成せるよう手続きの平易化が必要だ」と述べられた。また、日米安保条約の廃棄については、「今や米国はわが国の最も重要なパートナーだ。防衛を始めあらゆる面で米国の同盟関係は強化し続けていくべきだ」と述べられ否定的な考えを示された。

最後に、先般自衛隊を「暴力装置」と呼んだ仙石官房長官について、「真つ当な国であれば即刻罷免だ。一刻も早くこの国を真つ当な国にしましょう。」と訴え締めくくられた。

副幹事長 堀川宏史



40周年
記念事業

沖縄・京都の塔慰霊参拝

京都女子神職会 会長 六人部美恵子



長様よりいただきました。

この「常永遠」の舞は、平成六年に平安京遷都千二百年を奉祝して京都府の神社界挙げて作られた平安京頌歌で、当会六代日梶智子会長様が幸神社中川久公宮司様の御指導の下、完成した入魂の「女子神職の舞」でございます。

会員より舞人四名が重責の中、心静かに習礼を重ね、稽古に励みました。そして慰霊祭の日、浄衣に身を包み純白の「かすみ草」と「白ゆり」を掲げて清めの小雨降る中、四名の舞人は一つとなり、祈りを込めて身震いする程の清い舞を奉納されました。空気の凛と張りつめた中、自ずと涙が出ました。

郷土を想い無念の中斃れられた京都出身の御英霊、二五三〇余名もの貴い貴い。御命を以て運命を共にされた沖縄住民の幾多の悲しみの上に、今立たせていただいていることで胸が張り裂けそうなか、私も拙いながら、日本歌曲の「平城山」を奉納させていただきました。

私は今回二度目の参加となりますが、目に見えない人間の貴い魂の

私にとりまして一生涯忘れることのない貴い時を刻みました平成二十三年二月二十七日～二十八日は、今振り返りましても胸が締めつけられます。

神道政治連盟京都府本部様が宜野湾市嘉数高台公園内に鎮座されます「京都の塔」での慰霊祭を齎行され、本年で十回目にあたります。そしてこの度の創立四十周年記念・沖縄「京都の塔」慰霊祭に京都女子神職会で是非「常永遠」の舞の奉納をとの重責の御要請を林秀俊本部



声、失われた命の重さ、人間としてのあり方を今一度考えさせられました。やまもすると悲惨な記憶が風化する中、再び戦争の悲しみ苦しみが繰り返されぬよう、ご冥福を祈り続ける為にも、この「京都の塔」慰霊参拝は後世に継承、継続していく重要性を感じ入りました。

当会より七名参加させていただきました、林本部長様をはじめ皆々様のお陰により恙無く終える事ができましたこと、深く感謝申し上げます。

そして、これよりわずか二週間後の三月十一日に未曾有の「東日本大震災」がおこり、その惨状に打ちひしがれましたが、被災者の方々に天皇皇后両陛下がひざまずかれて、おやさしい眼差しでお励ましなされています御姿に輝く未来の「常永遠」を切に切に祈ってやみません。「国民のうへやすかれとおもふのみわが世にたえぬ思なりけり」今、あらためて明治天皇御製が心に深く染み入ります。



40周年
記念事業

「女子学徒隊」慰霊巡拝



40周年
記念事業

「京都の塔」案内看板の設置



老朽化した案内看板を改修すると共に、嘉数高台公園へ向かう道路および公園内に案内看板を新設した。また、慰霊祭に先立ち、看板の清祓が行われた。



「白梅の塔」「ひめゆりの塔」「ずいせんの塔」「積徳学徒隊鎮魂の碑」「悌悟の塔」の女子学徒隊の慰霊巡拝を実施した。「白梅の塔」横の「自決之塚」では思わず手を合わせた。

40周年
記念事業

靖國神社京都府出身戦没者慰霊祭

副幹事長 神尾和俊



満開の桜を愛でながらの参集ですが、本年は新緑の風薫る中での慰霊祭となりました。
震災の傷跡も癒えぬ中、恒例の慰霊祭と記念事業の献木祭を御奉仕頂きました靖國神社様に謹んで感謝申し上げます。



献木：河津桜

去る六月八日、東日本大震災により延期されていた、京都府関係祭神慰霊祭並びに創立四十周年記念献木祭が靖國神社において齋行された。
当日は、田中恆清京都府神社庁長、林秀俊神政連京都府本部長をはじめ十八名が参列し、祖国の輝ける未来のために命という尊い犠牲を払って散華された英霊に対し、ただひたすらに感謝の誠を捧げました。
慰霊祭は例年三月に齋行しており、

3・11

ツメアト
東日本大震災の爪痕



岩手県陸前高田市上空より被災地を臨む



東日本大震災で被災された
みなさまに心よりお見舞い申
しあげ、被災地の一日も早い復
興を心から祈念いたします。

三月十一日、悪夢のような大災害が東北地方を中心とした東日本を襲った。史上最大規模の大地震。想像を絶する大津波。そして、予想だにしていなかった原発事故による放射能汚染。未曾有の複合的大災害である。日本中が混乱する中、震災発生間もない十六日には、天皇陛下自ら異例のビデオメッセージを放送遊ばされた。残念ながら被災地域の多くが停電していたため、直には被災者に伝わらなかったことが惜しまれるが、国民の不幸を悼み被災者の苦労を気遣われる大御心は、その後被災者それぞれの心に響いたに違いない。

一方、被災した神社数は三千三百社以上にのぼった。その内社殿の全半壊は二百二十八社だという事である。神社本庁田中総長始め神道政治連盟長曾我部会長や打田幹事長、また山谷えり子議員など相次いで現地入りし、被災神社関係者にお見舞い申し上げると共に、状況をつぶさに視察された。この難局に当たり政治は混迷を深め、政府はただ手をこまねくばかりである。避難生活に疲れた被災者の救済には一刻の猶予も許されないのである。

東北地方太平洋沖地震に関する天皇陛下のおことば

この度の東北地方太平洋沖地震は、マグニチュード九・〇という例を見ない規模の大地震であり、被災地の悲惨な状況に深く心を痛めています。地震や津波による死者の数は日を追って増加し、犠牲者が何人になるのかも分かりません。一人でも多くの人の無事が確認されることを願っています。また、現在、原子力発電所の状況が予断を許さぬものであることを深く案じ、関係者の尽力により事態の更なる悪化が回避されることを切に願っています。

現在、国を挙げての救援活動が進められています。厳しい寒さの中で、多くの人々が、食糧、飲料水、燃料などの不足により、極めて苦しい避難生活を余儀なくされています。その速やかな救済のために全力を挙げることに、被災者の状況が少して

も好転し、人々の復興への希望につながっていくことを心から願わずにはいられません。そして、何にも増して、この大災害を生き抜き、被災者としての自らを励ましつ、これからの日々を生きようとしていく人々の雄々しさに深く胸を打たれています。

自衛隊、警察、消防、海上保安庁を始めとする国や地方自治体の人々、諸外国から救援のために来日した人々、国内の様々な救援組織に属する人々が、余震の続く危険な状況の中で、日夜救援活動を進めている努力に感謝し、その労を深くねぎらいたく思っています。

今回、世界各国の元首から相次いでお見舞いの電報が届き、その多くに各国国民の気持ちや被災者と共にあるとの言葉が添えられています。これを被災地の人々に

お伝えします。

海外においては、この深い悲しみの中で、日本人が、取り乱すことなく助け合い、秩序ある対応を示していることに触れた論調も多いと聞いています。これからも皆が相携え、いたわり合って、この不幸な時期を乗り越えることを衷心より願っています。

被災者のこれからの苦難の日々を、私たち皆が、様々な形で少しでも多く分かち合っていくことが大切であろうと思えます。被災した人々が決して希望を捨てることなく、身体（からだ）を大切に明日からの日々を生き抜いてくれるよう、また、国民一人ひとりが、被災した各地域の上にもこれからも長く心を寄せ、被災者と共にそれぞれの地域の復興の道の手を見守り続けていくことを心より願っています。

東日本大震災の爪痕



岩手県大槌町鎮座稲荷神社の倒壊した鳥居を視察する山谷えり子議員。



大槌町鎮座小槌神社を視察する田中総長。本殿のすぐ下まで津波が襲った。



陸前高田市鎮座今泉天満宮。社殿は跡形もなく流され一本杉だけが残った。



今泉天満宮の一本杉を守るため支援に駆けつけていた平野神社尾崎宮司。



石巻市鎮座伊去波夜和気命神社。社殿は津波で浸水したが全壊は免れた。



女川市立病院の屋上から、被災地を視察する神政連長曾我部会長。



相馬市鎮座相馬中村神社では被災者に救済物資の洋服を配っていた。



宮城県の被災地神社境内で炊き出し奉仕を行う神青協のメンバーたち。

(写真提供：神政連本部)

あしあと

事務局からの活動報告(平成二十二年十一月〜平成二十三年七月)

平成22年	11月 前月	11月 9日: ●創立40周年記念大会 280名(於 リーガロイヤルホテル京都) * : 清政49号(特別号)発行 11月17日: ●京都府神社庁新嘗祭 林本部長参列(於 京都府神社社会館神殿) 11月24日: ●第5回創立40周年実行委員会12名(於 リーガロイヤルホテル京都) 11月28日: ●自由民主党京都府連政経文化懇談会5名(於 国立京都国際会館)
	12月 前走	12月15日: ●関係団体代表者懇話会 林本部長出席(於 ホテル本能寺) 12月19日: ●創立40周年記念時局講演会1200名(於 ホテルグランヴィア京都) * : 京都府本部役員会 林本部長以下関係者26名(於 ホテルグランヴィア京都) 12月23日: ●教育勅語渙発120年記念祭120名(於 京都府神社社会館) ●天長節奉祝日本会議京都式典120名(於 京都府神社社会館)
	1月 降月	平成23年 1月13日: ●第6回創立40周年実行委員会13名(於 京都府神社社会館) 1月14日: ●尖閣諸島領海を守る署名活動13名(於 四条河原町) 1月17日: ●参議院議員佐藤正久新春の集い 林本部長出席(於 全日空ホテル) 1月22日: ●京都府神社庁新年神職總會関係団体助成金交付式 林本部長出席(於 京都府神社社会館) 1月23日: ●第78回自由民主党大会 中嶋事務局長出席(於 グランドプリンス赤坂) 1月28日: ●神政連中央本部役員会 林本部長出席(於 神社本庁)
	2月 如月	2月 8日: ●神道政治連盟滋賀県本部講演会 林本部長以下3名出席(於 野洲文化ホール) 2月11日: ●建国記念の日奉祝京都式典 関係者出席(於 京都府神社社会館) 2月18日: ●京都府神社庁祈年祭 林本部長参列(於 京都府神社社会館神殿) * : ●第17回全国統一地方選挙 選挙対策会議 林本部長以下14名出席(於 京都府神社社会館) 2月27日~28日: ●神純京都の塔慰霊参拝団結成28名(於 神輿組)
	3月 弥生	3月 5日: ●自由民主党京都府連決起大会12名(於 シルクホール) 3月16日: ●京都府本部4役会(於 京都国学院) 3月17日~18日: ●統一地方選挙各支部へお願い回り 本部長以下のべ7名(於 京都府内) 3月19日: ●参議院議員西田昌司京都政経パーティー5名出席(於 京都国際ホテル) 3月22日: ●緊急支部長及び関係団体代表者合同会議 林本部長出席(於 京都府神社社会館) 3月28日: ●京都府神社総代会總會 林本部長出席(於 ホテルグランヴィア京都)
	4月 卯月	4月10日: ●第17回統一地方選挙投票日 4月11日: ●統一地方選挙本部推薦当選者祝電打電 4月17日: ●京都府神社庁例祭(於 京都府神社社会館) * : ●神社庁並び総代会関係者合同会議(於 京都府神社社会館) 4月19日: ●神政連中央本部表彰審査会 林本部長出席(於 神社本庁) 4月20日: ●神政連中央本部役員会 林本部長出席(於 神社本庁)
	5月 午月	5月 6日: ●京都府本部役員会(於 京都府神社社会館) 5月 8日: ●京都府神社洛東支部総代会總會 林本部長出席(於 魚善) 5月30日: ●神政連近畿地区協議会 林本部長・梶幹事長・中嶋事務局長出席(於 ホテル日航奈良)
	6月 水無月	6月 3日: ●京都府本部四役会 林本部長以下7名出席(於 京都国学院) 6月 7日: ●神道政治連盟役員会 林本部長出席(於 神社本庁) * : ●神道政治連盟本部長事務局長連絡会 林本部長・中嶋事務局長出席(於 神社本庁) * : ●神道政治連盟-神道政治連盟国会議員懇談会合同祝賀会 林本部長以下4名出席(於 ホテルニューオオタニ) 6月 8日: ●神道政治連盟中央委員会 林本部長・竹内吉田副本部長・梶幹事長・中嶋事務局長出席(於 神社本庁) 6月 8日~9日: ●靖國神社参拝 京都府出身戦没者慰霊祭 林本部長以下18名出席(於 靖國神社) 6月10日: ●参議院議員西田昌司国政報告会 本部長以下8名出席(於 シルクホール) 6月11日: ●船井支部神社総代会總會 林本部長出席(於 山村開発センターみずほ) 6月13日: ●谷垣祝一自民党総裁ご令室逝去につき弔問 林本部長参弔(福知山谷垣事務所) 6月20日: ●京都府本部綱紀財務合同委員会(於 京都府神社社会館) * : ●京都府本部役員会(於 京都府神社社会館) 6月27日: ●神道政治連盟和歌山県本部40周年記念式典 林本部長出席(於 ダイワロイネットホテル和歌山) 6月29日: ●京都府本部定例代議員会(於 京都府神社社会館)
	7月 文月	7月 2日: ●丹波五支部連合会總會 花房副本部長出席(於 玉川樓) 7月11日: ●神道政治連盟近畿地区協議会(於 京都センチュリーホテル) * : ●第25回会員大会開催(於 京都センチュリーホテル) * : ●清政第50号発行



御製を拜して。

五年の昔の禍を思ふとき
 復興の様しみてうれしき

平成五年七月十二日、「北海道南西沖地震」が発生し、奥尻島は地震と津波により大きな災害を被りました。陛下はすぐに奥尻島の各所をまわられて被災者を御慰問になり、心から励まされました。それから五年後の平成十年、見事完全復興をなし遂げことをお喜びになり詠まれた御製です。この間、島民の受けたわざわいを思い、復興を祈り続けてこられた大御心が「しみてうれしき」(しみじみとうれしい)という言葉となってあらわれた慈愛に満ちた御歌でした。

日本の国土は地震や台風が多く、時として国民が大きな被害を受けることも少なくありません。平成の御代になってからも、幾度も大きな自然災害が発生しました。その度に天皇皇后両陛下は、災害に苦しむ住民達の避難所を御訪問され、被災者に大きな勇気と希望を与えています。今回の東日本大震災に際しても、未だ余震の続く現地にすぐさま入られ、積極的に各県の避難所を御訪問されています。また救助・復興活動にあたる自衛隊、警察等の方たちにも親しく労いの言葉をかけられました。私たち、日本人が、この度のような震災にあっても取り乱すことなく平静を保っていられるのは、天皇・皇后両陛下が、喜びも悲しみも常に国民とともにされておられ、その大御心や御言葉が、被災した人々にとって明日への希望と生きる力になっているからに他なりません。

編集室だより

昨年、神道連京都府本部が創立40周年の佳節を迎え盛大に記念式典が挙行された。そしてこの度、機関誌『清政』が50号(記念号)を発行する運びとなった。大変喜ばしいことであり、昭和61年9月30日の創刊以来、清政を愛し、発行にご尽力された先輩諸賢に謹んで深甚なる敬意を表します。

記録と記憶を残すべく、記念号に掲載した東日本大震災の被害と惨状。被災地の日も早い復興を願ってやまない。

今こそ、天皇陛下の大御心を体し、国民一丸となってこの国難を「雄々しく」乗り越える秋である。

(神)

歴史Ⅱ人類社会の過去における変遷・興亡のありさま。また、その記録Ⅱと広辞苑に載っている。
戦国乱世の時代を駆けめぐり天下統一を成し遂げ、この京の都と切り離す事が出来ない豊臣秀吉は、太閤記等小説・史話により知らない人はいない人物である。江戸時代には庶民の英雄、明治には国家の英雄と神格化されるが、大東亜戦争後は一転侵



秀吉英雄伝説の謎
著者:津田三郎 中公文庫(¥840)

略者の汚名をそそがれる。その秀吉が伏見城にて没した後、波乱に富んだ数奇な道を歩む事はあまり多くの人たちに知られていない。
往時豊國廟神廟内には豪華華麗な社殿が造営されたが、時の権力者また宗教者等の目論見により破却され現在を迎えた。
今、原発事故問題で世界は震えている。何時の時でも最善の統べは有る。然し乍ら、それは先を見据えた方法か否かを見抜く力が今後益々大切になってくる。未来のために。
尚、本書は絶版しており現在は古書としてのみ入手可能であることをお断りしておく。

神道政治連盟京都府本部
会計責任者 室川喜幸

せいせい書評

今読んでおきたいとおきの書籍

●ご意見ご感想をお待ちしています。
投稿はご氏名ご連絡先を明記の上、FAXか電子メールでお願いします。
宛先/神道政治連盟京都府本部
「清政」編集室
ファックス/075-863-6664
電子メール/
info@kyoto-jinjacho.or.jp



このロゴマークは、わたくしたちの会名である「神道政治連盟」の英訳の頭文字SAS(Shinto Association of Spiritual Leadership)と日本古来の装飾品である勾玉(マガタマ)をデザイン化したものです。

清政 第50号

発行日 平成23年7月11日(月)
発行所 神道政治連盟京都府本部
〒616-0022京都市西京区
嵐山朝月町68-8
電話 075-863-6677

神道連ホームページをぜひご覧ください。
<http://www.sinseiren.org>

編集協力 (株)ハルプロモーション

ロマン主義のゴヤを西欧近代絵画の萌芽とみなし、写実主義、印象派、抽象主義等の近代絵画の理念、表現方法の変遷を、通史として概観できる本です。
絵画関連の本は、美術全集や画集は数多く刊行されていますが、近代絵画の歴史をわかりやすく読める本は少ないのが現状です。
この本で著者は、モネやピカソ、セザンヌ、といった天才と呼



「近代絵画史」
著者:高階秀爾 中公新書(¥693)

ばれる画家達の絵画が、彼らの才能だけで偶然的、突発的に描かれたのではなく、当時の時代背景、既成概念への抵抗精神、西欧各国の民族性に根差した上で、近代絵画の流れの中から、生まれるべくして生まれてきたのだと熱く語ります。
また個性や主観性等の近代的自我が芽生えていく過程と苦悩を、画家達とその画業を通して辿っている本でもあり、現代の日本に生きる私達にとっても、重要な課題が提示されている様に思えてきます。
絵画に詳しい方も、そうでない方も、興味深く読んで頂けるお薦めの一冊(上下二巻)です。
石清水八幡宮権禰宜 田中 博志